

小学校社会科における、「社会的な見方・考え方」を 意識して働かせ、意欲的に学習に向かうことのできる 児童の育成

—— 教材研究シート『MKHシート』の作成と実践を通して ——

長期研修員 鈴木 篤喜

《研究の概要》

本研究は、小学校社会科の学習において、教材研究シート『MKH（見方・考え方を働かせる）シート』の活用を中心とした手立てを講じることで、「社会的な見方・考え方」を意識して働かせ、意欲的に学習に向かうことのできる児童の育成を目指したものである。

具体的には、以下の三つの手順を通して、本主題に迫ることとする。

- 1 MKHシートを活用し、発問と教材（資料）を考えることで、教師が児童に意識して働かせる見方・考え方を明確にする。
- 2 児童が「社会的な見方・考え方」を意識でき、自ら働かせるための手立てを講じる。
- 3 児童自らが「社会的な見方・考え方」を意識して働かせる活動を繰り返す。

キーワード 【社会—小 教材研究 MKHシート 見方・考え方 視点と方法】

群馬県総合教育センター

分類記号：G02-02 令和2年度 273集

I 主題設定の理由

今回の小学校学習指導要領社会編（平成29年3月公示）の改訂では、学校教育が長年育成を目指してきた「生きる力」を改めて捉え直し、目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。それらの資質・能力を育成するためには、我が国の教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。前述の指導要領には、深い学びの鍵として社会科ならではの物事を捉える視点や方法である、「見方・考え方」を働かせることが重要であると示されている。これは、社会科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、社会科での学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められている。

また、群馬県教育委員会は、育成を目指す資質・能力が明確化されたことで、令和2年度の「学校教育の指針」を作成した。学習指導の欄には、小学校社会を例として問題解決的な授業づくりが取り上げられている。これによって、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを推進するためのロールモデルが提示されたが、ここには「社会的な見方・考え方」を働かせることについては触れられていない。社会的な見方・考え方を働かせ、課題追究、課題解決活動を通して、三つの柱の資質・能力を育成していくことも重要な課題である。

研究協力校の教師に「社会科の授業づくりに関して困っていること・悩んでいること」というアンケートを行った。回答を分析した中で顕著になった課題は、「社会的な見方・考え方」に関することである。今回の改訂の柱である「社会的な見方・考え方」の意味を質問したところ、正確に答えられた先生は約19%であった。大まかに捉えている先生は約35%であった。これは、まだ現場の先生方に「社会的な見方・考え方」が十分に浸透していない結果であると言える。

そこで、単元構成をするときに、児童が意識的に「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題追究、課題解決活動がイメージできる、『MKHシート』を作りたいと考えた。このシートの活用で、教師は教材研究の段階で、1単位時間ごとにどんな「社会的な見方・考え方」を働かせ、児童にどんな追究の視点や方法で活動させるのかを明確にしてから指導に当たることができる。このように、教師が事前に「社会的な見方・考え方」を働かせる活動場面を明確にし、意識して指導することで、徐々に児童も「社会的な見方・考え方」を意識して働かせられるようになる。そして、問題解決型学習に必要な学習方法を身に付け、課題を追究し解決の達成感を味わうことで、調べ学習の楽しさと学習理解の高まりを感じることが、意欲的に学習に向かうことのできる児童の育成につながると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

課題追究、課題解決活動において、「社会的な見方・考え方」を意識して働かせ意欲的に学びに向かうことのできる児童を育成するために、教材研究シート『MKHシート』を作成し、活用を中心とした手立ての有効性を明らかにする。

III 研究仮説（見通し）

- 1 課題追究、課題解決活動において、教師が『MKHシート』を使って児童に働かせたい「社会的な見方・考え方」を事前に考えを明確にしてから指導すれば、児童が「社会的な見方」を働かせ、追究の視点に気付き、今後の活動に対して見通しをもつことができるであろう。
- 2 課題追究、課題解決活動において、『MKHシート』に記載されている「社会的な見方・考え方」を児童に選択・判断させて、課題の追究から解決するまでの見通しと方法を意識して働かせれば、児童が自ら課題を解決できたという実感を味わうことができるであろう。

3 課題追究、課題解決活動において、『MKHシート』で「社会的な見方・考え方」を意識して働かせる活動を繰り返せば、児童が自ら「社会的な見方・考え方」を働かせられるようになり、自分の学び方に自信をもって意欲的に学びに向かうことができるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

MKHシート (5・6年生用)

これであたかも社会の探求づくりに自信をもてるはずだよ。

「見方」欄の拡大は表1

「考え方」欄の拡大は表2

「見方」欄の拡大は表1

「考え方」欄の拡大は表2

学習計画の時間 (10時間分)

学習計画項目の拡大は表3

これらの項目はプルダウンで選べます

活動過程と時間数

図1 MKHシート全体図

表1 MKHシート「見方」欄の拡大

『見方』 参考となる 視点の例	①地理的な見方	②歴史的な見方	③公民的な見方
	位置・空間的な広がり	時期・時間の経過	事象の相互関係・人々の相互関係
【選択・発問の視点】 分布、地域、範囲 (地理的位置、地形、気候、方位、自然条件、土地利用など)	【選択・発問の視点】 起源、変化、継承 (時代、由来、背景、発展、維持、期間、持続可能性など)	【選択・発問の視点】 工夫、関わり、協力 (努力、願い、つながり、仕組み、対策、役割、影響など)	

表2 MKHシート「考え方」欄の拡大

『考え方』 参考となる 方法の例	④比較・⑤分類、整理
	⑥関連付け・⑦総合化
【学び方の例】 予想、収集、選択、分析 (読み取り)、解釈、考察、具体的に、多面的に、表現、意味付け、価値付け、自己決定など	

(1) 文言の定義

① 「MKHシート」とは

図1が実際のMKHシート (『「社会的な見方・考え方」を働かせる』のアルファベットの頭文字をとって「MKH」) である。このシートは、「社会的な見方・考え方」を考えながら教材研究できるように構成されている。内容は、課題追究、課題解決活動で、児童に働かせたい「社会的な見方・考え方」を1単位時間のめあてに沿って、発問と教材 (資料) とを併せて考察し具体化することができる。そのため、教師が「社会的な見方・考え方」を意識し児童につかませたい視点と方法を明確に示してか

表3 学習計画項目の拡大

☆Ⅰ.めあてと関係の深い『見方』 ※「つかむ」過程では、本文や単元の課題 (学習課題) を参考に
Ⅱ.単元の課題 (学習課題) や「めあて」に迫る発問
Ⅲ.使用する教材 (資料)
☆Ⅳ.上の教材 (資料) を使う方法 = 『考え方』
教材 (資料) 活用でねらう内容
☆実際の活動 (思考)

ら授業指導に当たることができる。よって、児童に追究の見通しと課題解決のための方法をもたせることが可能となる。なお、このシートはあえて見方・考え方を分けて作成した。本来は見方・考え方は分けることはできないが、教師が教材研究をする思考の流れとして使いやすいこと、授業展開の中で働かせる活動場面や手立てを考えやすいことを理由としている。

② 「社会的な見方・考え方」とは

「社会的な見方」は社会的な事象を捉えるときの視点であり、「社会的な考え方」は社会的な事象や事実を操作したり処理したりする方法である。

本研究では、小学校学習指導要領社会編の(1)改訂の趣旨にある「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係」という文言を三つの見方に整理し、分かりやすく簡単に捉えることとした。北俊夫氏と澤田陽介氏の考え方を参考に、位置や空間的な広がりを「地理的な見方」、時期や時間の経過を「歴史的な見方」、事象や人々の相互関係を「公民的な見方」とした。また、『比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活とを関連付けたりすること』という文言から、考え方を「比較」「分類、整理」「関連付け」「総合化」と区別して示すこととした。

③ 「見方・考え方」とは

文中で登場する「見方・考え方」は「社会的な見方・考え方」を短縮したもので、同義である。

④ 「社会的な見方・考え方を意識して働かせる」とは

どんな視点、どんな方法で追究・解決しているのか児童自身が認識できている状態のことである。

⑤ 「意欲的に学習に向かう姿」とは

児童本人がやる気をもって課題追究、課題解決しており、その活動を楽しんでいる状態のことである。また、自分の意志で次の課題に進んで取り組もうとする姿のことである。この姿は、「主体的な学び」につながっていくものとする。

(2) 手立ての説明

① MKHシートの活用方法

MKHシートは全学年、全単元に作成例（東京書籍用）が用意してある。それを教師が自分の指導スタイルに合わせ、上書きして活用していくことを基本としている。ただし、中学年では、地域教材での教材研究が必要になるため、MKHシートを更に応用して活用することが考えられる。

② 「社会的な見方・考え方」を児童に意識させる手立て

MKHシートで教材研究した発問と教材（資料）の活用方法をもとに、児童に見方・考え方を意識させる手立てを表4にまとめた。

表4 「社会的な見方・考え方」を児童に意識させる手立て

手立て	具体的な方法
見方・考え方の予想・確認	○めあての提示後、課題追究・課題解決に使用する見方・考え方を児童に個人で予想させ、全体で確認をする。
見方・考え方の可視化	○課題追究・課題解決に使用する見方・考え方を全体で確認する際、教師が可視化カードを黒板に提示する。
見方・考え方の判別と記入	○追究の前後に、児童自身に働かせる見方・考え方を判別させ、記入させる。

③ 「社会的な見方・考え方」を働かせた実感を表現させる手立て

『社会的な見方・考え方』働かせた実感とは、児童自ら見方・考え方を働かせた感覚を味わい、課題解決に向けて自分の成長を感じることである。それを表現させる手立てを表5にまとめた。

表5 「社会的な見方・考え方」を働かせた実感を表現させる手立て

手立て	具体的な方法
見方・考え方を意識した感想	○1単位時間の振り返り時に、文頭に「見方・考え方を使ったら」という定型文を付け、児童に感想を書かせる。
やる気と理解度の自己評価	○1単位時間の振り返り時に、見方・考え方を働かせた効果を表出させるため、児童に学習へのやる気と理解度を5段階で自己評価させる。

	会的な見方・考え方を児童に提示したり、選択・判断させたりして、解決する方法を意識して働かせたことは、児童は自ら課題を解決できたという実感を味わうことに有効だったか。	た事前・事後アンケートの分析 ③児童の自己評価
見通し3	課題追究、課題解決する活動において、『MKHシート』で「社会的な見方・考え方」を意識して働かせる活動を繰り返したことは、児童自ら「社会的な見方・考え方」を働かせられるようになり、自分の学び方に自信をもって意欲的に学びに向かうことに有効だったか。	の分析 ④振り返りの文章の分析 ⑤学習活動の観察

3 抽出児童

A	社会科の調べ学習は「とても好き」と感じている。特に、「自分で課題を解決する調べ方が分かる」と理由を挙げる一方、地球儀と地図の応用問題に苦手意識をもっている。MKHシートを活用し、意図的な資料を使い焦点化した発問に答えさせることで、課題解決に向けた視点や方法を身に付けさせ、意欲的に応用問題に取り組ませたい。最終的には追究意欲を更に高め、主体的に学ばせたい。
B	社会科の調べ学習は「好き」と感じている。特に、「ペアやグループでの教え合いが楽しい」と理由を挙げる一方、「一人で調べること」が難しいし、嫌いと感じている。MKHシートを活用し、可視化カード等で視覚的に支援することで、社会的な見方・考え方を意識した調べ方に慣れさせ、一人でも調べられる達成感から意欲的な学びにつなげていきたい。
C	社会科の調べ学習は「あまり好きではない」と感じている。「自分で課題を解決する調べ方が分からない」と理由を挙げる一方、「外国の位置を覚えること」だけは楽しいと感じている。MKHシートを活用し社会的な見方・考え方に慣れさせ、暗記だけでなく、読み取った情報を使って考えられるようになった自分の成長への気付きから徐々に学習に向かう力を付けたい。

4 評価規準

知識・技能	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて、地図帳や各種の資料で調べて必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。 ②調べたことを白地図や図表などにまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。
思考・判断・表現	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見出し、国土の自然災害の状況について考え表現している。 ②我が国で発生する様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や県などの防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	①自然災害について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

5 指導計画（全6時間）

時程 (次)	過程	MKHシートに関連した学習活動 ④：発問 ⑤：資料活用の内容	見方 考え方	MKHシートをもとにした 手立て ⑥：主な手立て
第1時	つかむ	<p>[本時のめあて] 日本で起きる自然災害について話し合い、学習問題をつくろう！</p> <p>④：「津波」・「雪害」の被害はどんな場所で起きているかな？</p> <p>⑤：「津波は海沿い、雪害は日本海側で起</p>	<p>地理的な見方</p> <p>歴史的な見方</p> <p>比較</p>	<p>⑥可視化カードの提示</p> <p>・振り返りでの感想書きと自己評価</p>

こっていること」について読み取らせる。

単元の課題 自然災害は地形や気候とどのような関わりがあり、国や都道府県などでは、どのような防災の取組を行っているのだろうか？

第2時 第5時	追究する	<p>[本時のめあて] 地震はどんなところで起こり、被害を減らすためにどんな取組が行われているの？</p> <p>④：地震はどのようなしくみで起こるのかな？（起こる場所は決まっているの？）</p> <p>⑤：これらの対策は、基本、どのような時の対策なのかな？</p> <p>⑥：「耐震工事・防災会議は事前、緊急地震速報は瞬間、対策本部は事後という時間と対策の関係」について選択させる。</p>	<p>地理的な見方 公民的な見方</p> <p>比較 関連付け</p>	<p>◎見方・考え方の見通しの予想と全体での確認</p> <p>・可視化カードの提示</p> <p>・見方・考え方の判別、記入</p> <p>・振り返りでの感想書きと自己評価</p>
		<p>[本時のめあて] 津波災害はどんなときに起こり、被害を減らすためにどんな取組が行われているの？</p> <p>④：津波はどのようなしくみで、どこで発生するのかな？</p> <p>⑤：津波の時、避難タワーはどんな役割を果たすのかな？ないとダメなのかな？</p> <p>⑥：「津波が起こるしくみと沿岸に津波が押し寄せること」について話し合わせる。</p>	<p>地理的な見方 公民的な見方</p> <p>比較 総合化</p>	<p>◎見方・考え方の見通しの予想と全体での確認</p> <p>・可視化カードの提示</p> <p>・見方・考え方の判別、記入</p> <p>・振り返りでの感想書きと自己評価</p>
		<p>[本時のめあて] 風水害はどんなときにどんな場所で起こり、被害を減らすためにどんな取組が行われているの？</p> <p>④：「洪水」と「土砂災害」の起こる場所の違いとは何かな？</p> <p>⑤：「砂防ダム」と「ハザードマップ」の風水害における防災の役割としての違いとは何かな？</p> <p>⑥：「砂防ダムは災害自体を弱めたり防いだりする対策、ハザードマップは人に対する対策、また災害の事前・事後の対策の違い」について判断させる。</p>	<p>地理的な見方 公民的な見方</p> <p>比較 分類、整理</p>	<p>・見方・考え方の見通しの予想と全体での確認</p> <p>◎可視化カードの提示</p> <p>・見方・考え方の判別、記入</p> <p>◎振り返りでの感想書きと自己評価</p>
		<p>[本時のめあて] 火山や大雪による被害を減らすために、どんな取組が行われているの？</p> <p>④：雪害を防ぐには「消雪パイプ」の他にどんな対策が有効なのかな？</p> <p>⑥：「いろいろな対策の中から雪害に関係する対策」について選択させる。</p>	<p>公民的な見方</p> <p>比較 総合化</p>	<p>・見方・考え方の見通しの予想と全体での確認</p> <p>◎可視化カードの提示</p> <p>◎見方・考え方の判別、記入</p> <p>・振り返りでの感想書きと自己評価</p>

第6時	まとめ	<p>[本時のめあて] 自然災害と地形や気候との関わりや、防災の取組について学習したことをワークシートにまとめよう！</p> <p>④：今まで学習した資料の中から各自然災害と関係が深いものを選び、調べて分かったことを分類・整理してまとめよう。</p> <p>⑤：「本単元で使った資料を選んだり、キーワードを見付けたりして単元の課題の答え」についてまとめさせる。</p>	地理的な見方 公民的な見方	・見方・考え方の判別、 記入
			分類、整理 関連付け 総合化	◎振り返りでの感想書き と自己評価

VI 研究の結果と考察

1 検証の視点1

主に課題追究する活動において、教師が『MKHシート』を使って児童に働かせたい「社会的な見方」を事前に考えを明確にしてから指導したことは、児童は追究の視点に気付き、今後の活動に対して見通しをもつことに有効だったか。

(1) 結果

まず、授業実践での児童の視点を明確にする手立てとして、「追究する過程」のワークシートに図2のような見方・考え方の予想欄を設け、めあて設定後に個人で予想させた。判別が難しい児童には、図3にあるようにめあての文言に着目させ、見方を判別できるような言葉にアンダーラインを引き、支援策とした。

次に、めあてに対してどんな見方をするのかを全体で確認する時間を設けた。そのときには、補助発問での揺さぶりや児童にとって身近で具体的な例を取り上げるなど、児童とのやりとりの中で見方を決定した。そして図3のように決定した見方を可視化カードにして、めあてで着目させた文言の近くに貼り、児童全員に追究の視点が分かるようにした。

【見通し】 ※決めたものに○をつけましょう。

1. 今日の授業で使う見方（注目するポイント）を予想しよう！

『**地理的な見方**』（位置・空間）・『**歴史的な見方**』（時期・時間）・『**公民的な見方**』（人々・事象の相互関係）

2. 今日の授業で使う考え方（考える方法）は？

「**比較**」・「**関連**・（**題名付け**）」・「**分類**・（**整理**）」・「**総合化**」

図2 見方・考え方の予想欄

「自然災害を防ぐ」の学習計画表

単元の課題：自然災害は地形や気候とどのようなかかわりがあり、国や都道府県などでは、どのような防災の取り組みを行っているのでしょうか？

【追究の過程】 **可視化カードを使った全体確認**

1. 地震はど**歴史的な見方**に起こり、被害を減らすためにど**公民的な見方**な取組をしているの？

2. 津波災害はどんな時に起こり、被害を減らすためにどんな取組をしているの？

3. 風水害はどんな時に起こり、被害を減らすためにどんな取組をしているの？

4. 火山や大雪による被害を減らすためにどんな取組をしているの？

【まとめる過程】 **アンダーラインでヒント**

5. 単元を振り返り、自然災害の種類ごとに**分けて**まとめをしよう！

図3 追究の視点の確認

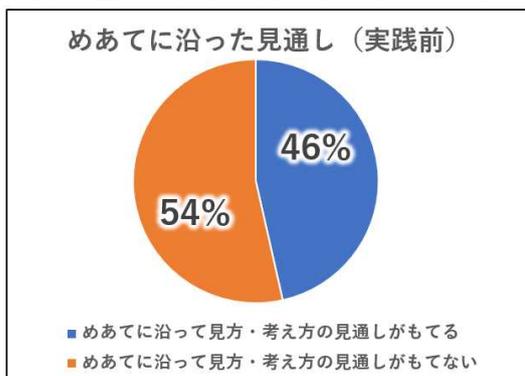


図4 実践前の児童の見通しの意識

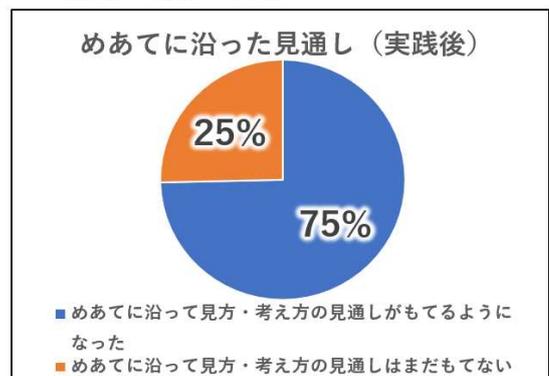


図5 実践後の児童の見通し意識

前ページの図4・5はアンケート調査の結果である。実践前は見通しがもてる児童より見通しがもてない児童が多かった。この児童の実態こそが本研究の始まりでもあったが、実践後には約75%の児童が見通しがもてるようになった。

なお、表6は抽出児童の見通しに対する振り返りである。

表6 抽出児童の見通しに対する振り返り

抽出児童A	・言葉に注目して見方を考えられた。地形や気候はすぐに「地理的な見方」だと判別できた。取組という言葉はイメージしにくかったけど、人が人のために行うと考えると「公民的な見方」だと分かった。
抽出児童B	・今まで全然見通しを気にしていなかったけど、見方を意識したら調べる事が分かるようになってきた。
抽出児童C	・「地理的な見方」、「歴史的な見方」は分かったけど、「公民的な見方」が難しい。

MKHシートを活用して授業をしてもらった先生方に、インタビューをして感想を聞いた。ほとんどの先生方は、「見方・考え方が意識できてよかった」「児童に追究の視点をもたせることができそうだ」「めあての中で中心となる見方を意識した発問を考えることで、児童は見通しがもてると思うよ」等、肯定的なコメントであった。しかし、図6のように6年生の担任（A教諭）と5年生の担任（B教諭）はMKHシートでの教材研究における課題を指摘していた。

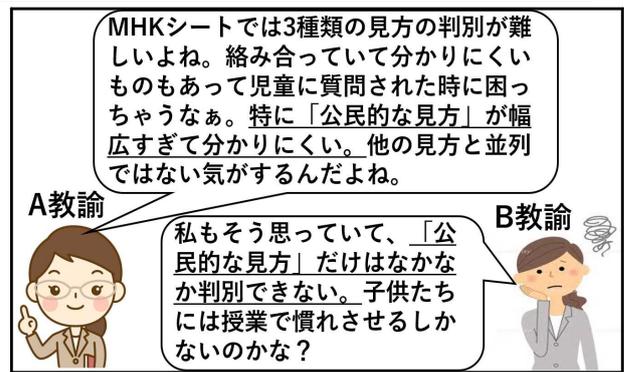


図6 先生方のコメント

(2) 考察

まず、挙げられた課題から考察する。抽出児童CとA教諭、B教諭は、「公民的な見方」の判別の難しさという同様の課題を挙げた。これは指導要領に示される、問題解決型学習のゴール「解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力」が分かりにくいことが原因であると考えられる。特に何をもって「解決」なのかが分からないのではないかと推測できる。それにより、「公民的な見方」は追究の過程で使うものであるが、課題解決のゴールと混同して考えてしまっている教師、児童が存在していると考えた。そこで、中学、高校の「公民的な見方」の系統性を確認し、「よりよい社会の構築に向けて」という分かりやすいゴールが明確になるようにMKHシートの説明欄に明記した。

次に、抽出児童Bの振り返りから意識の変容を考察する。抽出児童Bと同様に実践前には「見通し」という意識がない児童が多くいたが、約4分の3の児童が見通しがもてるようになった。この要因は、実践中に見方・考え方の予想、確認という取組を繰り返した手立ての影響が大きいと考える。今回の実践を通して児童自身が「見方」を働かせると「視点」というツールが得られ、それを意識すると追究への「見通し」がもちやすくなることに気付いたのだと考える。この気づきが見通しがもてるようになったという意識変容の直接の要因であると考えられる。

最後に、抽出児童Aの振り返りから、児童の「社会的な見方」を判別する基準について考察する。見通しがもてるには、「見方」を判別する手がかりとなる言葉を見付けることが大切であると考えられる。実践では言葉に注目させる手立てを継続したが、抽出児童Aの振り返りの文章を読む限り、抽出児童Aは、「見方」をもとに「視点」を見付け、今後の活動に「見通し」をもつという一連の思考の流れをつかんでいるように思う。感想には、「取組」という言葉がイメージしにくかったと書いてあるが、意味を考えることで判別する基準が分かり、人々の相互関係について納得できたのであろう。全体確認の中で「人が人のために〇〇をする」という具体的な例を示したことが、「国や県・町の担当者が、住民のために対策を行う」という双方向の関係を理解させたと考えられる。抽出児童Aのように一つの言葉から双方向の関係を見抜き考えることを基準にできた児童は、相互関係が分かり、「公民的な見方」を判別できたと考える。

以上のことから、「公民的な見方」の判別に課題はあったものの、大多数の児童が見方を働かせ、追究の視点に気付いた。このことが、活動に対して見通しをもつことに有効だったと考える。

抽出児童C	2. 研究協力校（実際に児童が通う学校）の安全が分かった。 3. 濱口梧陵がみんなのために堤防をつくって、えらいと分かった。 4. ハザードマップの役割が分かった。
-------	--

図10のような振り返り欄を使い、実践では毎時間「追究の過程」で児童に振り返りをさせた。「見方・考え方を使ったら・・・」という書き出しに合わせ書かせた。抽出児童Aは、2～4時間目までは書き出しに合わせず、実際に自分が使った見方をもと

【振り返り】	※調べたときに思ったことやわかった（できた）ことなどを書いてみましょう。
1. 見方・考え方を使ったら、	
2. 学習へのやる気 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5)	
3. 学習のわかり具合 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5)	※数字が大きい方がよい評価だよ。

図10 振り返り欄

にして感想を書いた。自然災害の対策について多面的に見ることができており、めあてに沿って深く考え課題解決できたことが予想できる。また4時間目は、更に深く追究したいことが書かれている。抽出児童Bは、2時間目、5時間目に身近な内容が書かれており、自分事として捉えていることが分かる。また、協力や役割、対策の工夫といった公民的な見方のキーワードを使っており、意識して働かせてことも見取ることができる。抽出児童Cは、文章を書くことが苦手な子ではあったが、めあてに対して考えたことをその子なりに表現したことが分かる。自分の学校や偉人についても触れており、みんなで話し合ったり、資料を読み取ったりした情報を生かした感想になっている。

(2) 考察

まず、「追究する過程」での見方・考え方が意識できるようになった児童が多い点について考察する。この要因は、MKHシートで授業のポイントとなる発問と資料提示の場面をもとに様々な手立てを講じたことがよい影響を与えたと考える。可視化カードの提示や見方・考え方を自分自身で判別させ、ワークシートへ記入させたことが特に大きい。MKHシートを活用する効果について、MKHシートを活用した6年生の担任（C教諭）、4年生の担任（D教諭）、3年生の担任（E教諭）からコメントをもらった。（図11）先生方はMKHシート

図11 先生方のコメント

で考える発問や資料提示を「木の幹」や「核」と表現していた。発問や資料提示の効果として、児童に課題追究・課題解決の視点と方法を与え、調べ学習を促すことを分かっていた。この理解から、これからMKHシートを活用する先生方が質の高い授業づくりをしてくれると考える。しかし、教師が様々な手立てを講じて、全ての児童が見方・考え方を意識できないことも考えられる。研究協力校でも、発問や文章の意味が分からなかったり、発問内容と見方・考え方と関連させられなかったりすることが原因で、意識できる段階に至っていないと思われる児童もいる。今後、そういう児童に対して言語としての初歩的な支援策やできる限りの個別指導を講じることを課題としたい。

次に、「自ら課題解決できたという実感を味わう」という点を考察する。この点では、抽出児童はそれぞれ単元のねらいとする姿に近づく感想が書けていた。どの児童もめあてに対する答えが自分の文章として書かれているので、最終的には課題解決ができ、その理解と知識をメタ認知として捉えられていると考える。また、どの抽出児童も個人の目指す姿にも近づく内容が書けていると考える。抽出児童B・Cは課題解決に至る活動の途中で教師や友達に教えてもらった箇所はあるが、追究の視点まではもつことができ、試行錯誤して自分の力で解決しようと努力する姿が見られた。

以上のことから、若干の課題があるものの、大多数の児童が解決する方法を意識して働かせ、追究できていた。このことが、課題を解決できたという実感を味わうことに有効だったと考える。

3 検証の視点3

課題追究、課題解決する活動において、『MKHシート』で「社会的な見方・考え方」を意識して働かせる活動を繰り返したことは、児童自ら「社会的な見方・考え方」を働かせられるようになり、自分の学び方に自信をもって意欲的に学びに向かうことに有効だったか。

(1) 結果

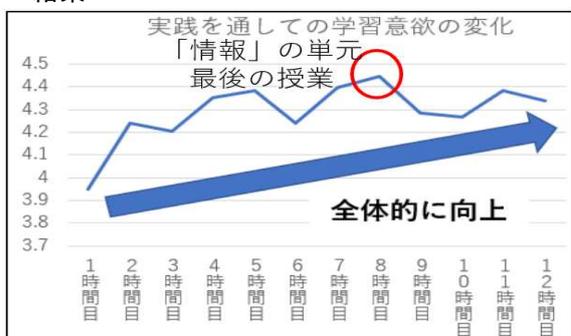


図12 実践を通しての学習意欲の変化

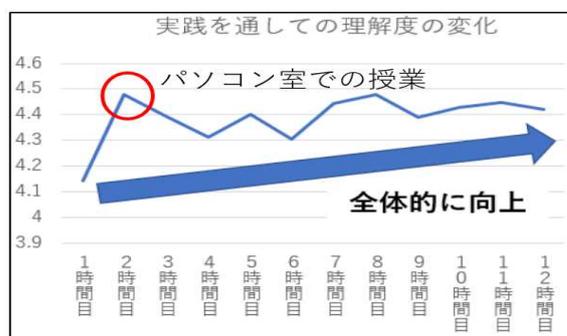


図13 実践を通しての理解度の変化

MKHシートを活用し、仮実践（本実践の前の実践）から本実践まで継続して検証1、2で述べたような手立てを繰り返した。児童は「社会的な見方・考え方」を毎時間意識して働かせ、授業を受けた。仮実践の8時間、本実践の4時間の全てで前ページの図10にあるような振り返り欄に自己評価をさせた。その結果が図12、図13である。学習意欲を「学習へのやる気」、学習の理解度を「学習の分かり具合」として5段階評価させた。平均点を折れ線グラフで実践前と実践後で比べた。結果は両方とも全体的に向上していた。

図14は事後アンケートで「見方・考え方を働かせて思ったこと」に関して複数回答させた結果である。「理解しやすくなった」と「調べ方が分かりやすくなった」が1位、2位である。3位には「調べるのが楽しくなった」、4位には「いろいろと分かって楽しくなった」が入った。

右の図15は、事後アンケートの集計結果である。「社会的な見方・考え方」を意識し働かせた授業を繰り返した結果、約88%の児童に学習意欲の向上が見られた。中間層と捉えられる児童は全員に学習意欲に向上が見られた。

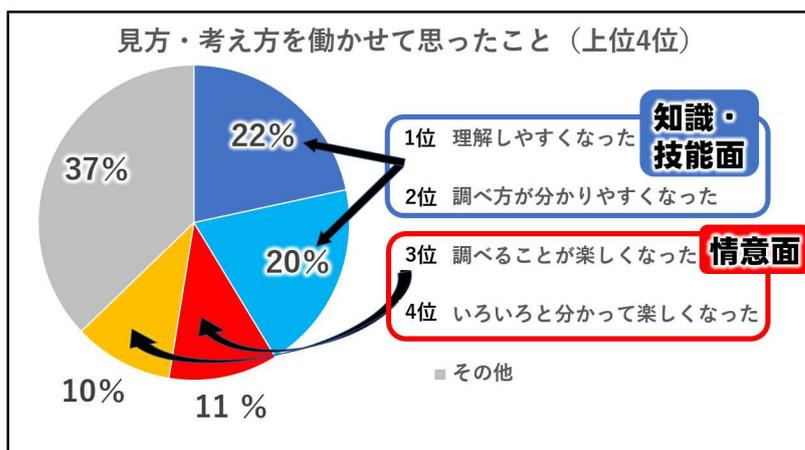


図14 見方・考え方を働かせて思ったこと

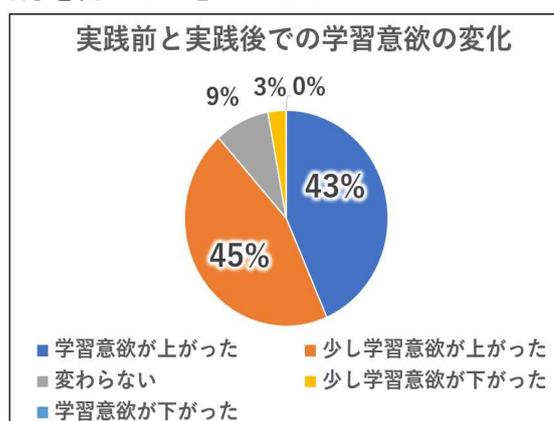


図15 学習意欲の変化

(2) 考察

まず、図12、13の「実践を通しての学習意欲と学習の理解度の向上」について考察する。児童は「社会的な見方・考え方」を意識して働かせる学習に慣れ、課題追究、課題解決の視点と方法ツールとして使い調べることができるようになった。それに伴い学習意欲が向上したのだと考えた。また、自分の力で調べられることが増えたり、調べられたことを実感したりすることが理解度が高まった要因と考えた。自分で調べた事柄を生かし、社会的な事象を多面的・多角的に考えられる場面も増え、社会科としての本質的な学びができたことも影響していると考えた。

次に図14の「見方・考え方を働かせて思ったこと」について考察する。児童は課題追究・課題解決のための視点と方法というツールを得たことで、調べ方が分かりやすくなり、思考の流れがスムーズになり理解しやすくなったことが予想できる。「思考の流れがスムーズになる」とは、視点と方法を使って、児童が納得できる答えまで障害なく調べられる状態になっていることである。児童はこの状態になることで、調べることが楽しくなり理解が容易になるため、更に楽しさを感じていると考える。

最後に図15の「実践前と実践後の学習意欲の変化」について考察する。中間層全員の意欲が上がった要因として、問題解決型学習のときに視点と方法を自然に使えるようになったことが考えられる。一方で、上位層に「変わらない」「少し学習意欲が下がった」児童がいることに疑問をもち、追跡調査で聞き取りを行った。児童は「もともと見方・考え方を働かせていた」「視点や方法は普通に使って調べていたので、目新しくなかった」と同じような理由を挙げた。つまり今回の実践内容では、上位層には物足りず易しすぎたことが原因であったことが考えられる。しかし、これを逆に捉えると、更にレベルの高い追究活動を望んでいることであり、意欲的に学習に向かう姿につながっているとも言える。下位層の児童は、「理由は特にないけど難しい」「見方・考え方を考えると考えることが多くなり、学習内容と混同してしまう」とのこと理由を挙げた。今後は、個別指導やスモールステップ学習など、見方・考え方が更に分かりやすくなる支援策を取り入れていきたい。

表8 抽出児童の単元のまとめ時の振り返り（※一部抜粋）

抽出児童A	・日本では様々な災害が起こる。自分の住む地域ではどのような災害が起こりやすいのか調べ確認して、それにあつた対策をすることが大切だと思う。自分でできる対策をたくさん知りたい。
抽出児童B	・たくさん自分で調べられてよかった。各地で様々な対策や取組をしていた。学んだことを生かし、いつ災害が起きてもしっかりと備えておこうと思った。
抽出児童C	・ハザードマップで避難場所を確認しようと思った。

表8は抽出児童の単元のまとめ時の振り返りである。どの抽出児童も、更に追究したいことや既習の知識を生かし自分事として行動に移そうという文章が書かれており、意欲が高まっていることが確認できる。5年生全体の結果の傾向と合わせ、この記述は意欲的に学習に向かう児童になってきていることを表す根拠と考える。このような姿は、「主体的に学ぶ姿」に直結するものと考えられる。

また事前、事後アンケートで問題解決型学習の意識を調査した結果を表したものが図16、図17である。事後アンケートでは、「とても好き」「好き」とともに増えている。これは、事前アンケートで「あまり好きではない」と答えた児童が「好き」の方向に動いたことが予想される。この結果には、問題解決型学習に対し、「楽しくなった」という肯定的な気持ちが表れていると考える。また、「嫌い」と答えた児童がいなくなった要因を、記述内容から追った。事前アンケートで、一人の児童は「調べ方が分からない」、もう一人の児童は「友達の意見が参考にできない」と答えていた。それが、実践を通して、自分で追究の視点と方法を導き出せたり、共通の視点で友達の意見を聞くことができたりした。この成長が自信へとつながり、意欲面によい結果として表れたと考える。

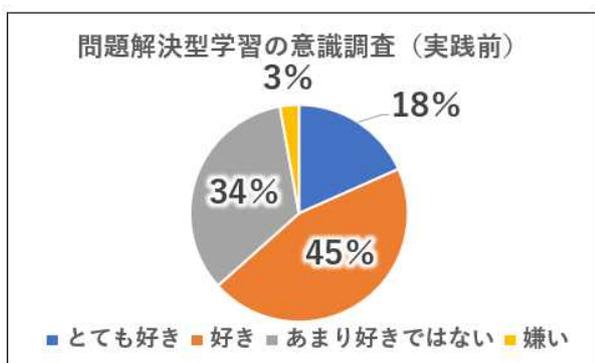


図16 問題解決学習の意識（実践前）

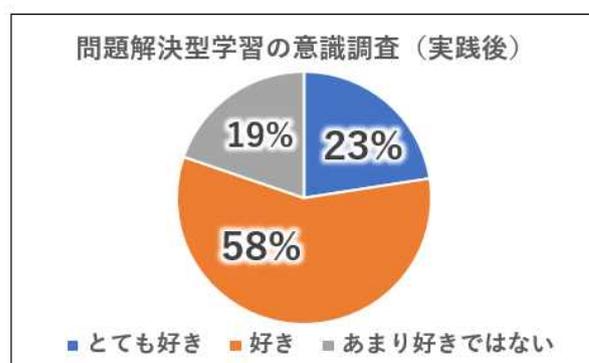


図17 問題解決学習の意識（実践後）

以上のことから、児童が自ら「社会的な見方・考え方」を働かせたことは、自分の学び方に自信をもって意欲的に学習に向かうことに有効だったと考える。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

「社会的な見方・考え方」を働かせるためのMKHシートを活用を中心として手立てを講じることは、児童が課題追究、課題解決する活動において、意識して「社会的な見方・考え方」を働かせ意欲的に学びに向かう児童を育成するために以下の点において有効であったと考える。

- (1) MKHシートを活用して、教師が児童に見方・考え方を予想させたり、言葉に着目させて考えさせたりしたことは、児童が追究の視点を得て、今後の活動に見通しをもたせる上で有効であったと考える。
- (2) MKHシートを活用して、教師が追究に必要となる中心的な見方・考え方を視覚的に確認したり、児童本人に記入させたりしたことは、児童が働かせる見方・考え方を認識し、課題を解決できたという実感を味わわせる上で有効であったと考える。
- (3) 教師がMKHシートを活用して授業を継続すると、児童は自ら「社会的な見方・考え方」を働かせて問題解決型学習の視点と方法を明確にして調べられるようになった。この課題解決型学習における調べる技術の向上が、児童にとって調べることや新しく知ることを楽しみさせ、学習意欲を高めることに有効であったと考える。

2 課題

- (1) MKHシートを活用した教材研究で、教師が「公民的な見方」の判別の基準を理解する。授業で分かりやすく伝えることで、児童が「公民的な見方」の判別に困らないようにする必要がある。
- (2) MKHシートでの教材研究を生かした上で、更に追究したい児童やまだ見方・考え方の理解が不十分な児童など、児童の実態にあった手立てや支援策を考える必要がある。

Ⅷ 提言

意欲的に学習に向かうことのできる児童を育成するには、まず教師がMKHシートを活用して、「社会的な見方・考え方」を明確にすることが大切である。次にそれをもとに手立てを考え、「社会的な見方・考え方」を意識した指導を継続することが有効である。意欲的に学習に向かうことができた児童は、主体的に学び、更に深い学びへと自分の学習をつなげていくと考える。

今回の実践と共に、3年生から6年生まで全学年、全単元分のMKHシート（東京書籍用）を作成した。（別添資料）是非先生方に、ご自分の指導に合うように上書きして活用していただきたい。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校指導要領解説社会編』（2018）
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プランⅡ』（2019）
- ・北 俊夫 著 『「主体的・対話的で深い学び」を実現する社会科授業づくり』 明治図書（2018）
- ・北 俊夫 著 『知識の構造図を生かす問題解決的な授業づくり』 明治図書（2015）
- ・澤井 陽介 著 『授業の見方「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』 東洋館出版（2018）
- ・澤井 陽介 著 『社会科の授業デザイン』 東洋館出版（2018）
- ・平川 公明 著 『6つの視点で授業改善！小学校社会科授業プラン』 明治図書（2018）
- ・社会科教育5月号・709号 2018年5月1日発行 明治図書
- ・社会科教育9月号・737号 2020年9月1日発行 明治図書

<担当指導主事>

西原 和久 阿左見 充良